レポート：Yahoo! Japan における鯨類製品販売の実態とその影響

（EIA 調査結果に基づく報告）

2025 年 6 月 16 日

---

1. はじめに

本報告書は、国際環境 NGO「EIA（Environmental Investigation Agency）」が 2007 年から 2025 年にかけて実施した調査に基づき、Yahoo! Japan における鯨類製品販売の現状とその問題点を明らかにするものである。販売実態、水銀汚染、動物福祉、国際的影響、企業の社会的責任など多角的な観点から課題を整理し、対応の必要性を検討する。

---

2. 鯨製品における水銀汚染の深刻さ

EIA が Yahoo! Japan を通じて購入した 66 点の鯨製品について、国内の認証検査機関で水銀濃度を測定したところ、以下のような結果が判明した。

- 平均水銀濃度は 2.67ppm で、日本政府の勧告値 0.4ppm の約 7 倍。
- 41 製品（62%）が勧告値を超え、16 製品（24%）はその 10 倍以上。
- 最も高濃度だった製品は和歌山県太地町産の乾燥イルカ（19ppm、基準の 47 倍）。

水銀は神経毒であり、特に胎児や乳幼児の発達に甚大な影響を与える。世界保健機関（WHO）も「少量でも公衆衛生上の重大な懸念」と指摘している。

---

3. 捕鯨の持続可能性と倫理的課題

(1) 商業捕鯨と絶滅危惧種

2024 年、日本政府はミンククジラなど 317 頭、ナガスクジラ 59 頭の捕獲を承認（実際の捕獲は 30 頭）。ナガスクジラは IUCN により絶滅危惧 II 類に分類されており、外部科学委員会も「60 頭の捕獲で局地的個体群の枯渇が懸念される」と報告している。

IWC（国際捕鯨委員会）第 69 回会合では、日本の商業捕鯨が「国際法義務に反する」との

懸念が表明された。

(2) 動物福祉の観点からの非人道性

アイスランドの専門家委員会は、「大型鯨を人道的に殺すことは不可能」とし、現在の捕鯨手法が動物福祉法と両立しないことを認めている。動物を食用とする行為であっても、法的・倫理的に許容できる範囲を逸脱しているという評価が定着しつつある。

---

4. 小型鯨類とイルカの乱獲

日本ではイルカ・小型鯨類（歯鯨類）の年間捕獲枠を約 11,000 頭と定めているが、過去 40 年間で 50 万頭超が殺害されたとされる。

- 主な対象種：バンドウイルカ、スジイルカ、イシイルカ、オキゴンドウ等。
- 過剰な捕獲により個体数は著しく減少。
- 水族館輸出目的で未成熟な雌を標的とする傾向も強まっており、生態系への影響が深刻化。
- 捕獲から放流までの拘束とストレスにより、「隠蔽された死亡」も問題となっている。

---

5. Yahoo! Japan の鯨製品販売の実態

EIA による 2025 年の調査では、Yahoo! Japan ショッピングサイト上に 963 件の鯨製品が掲載されており、うち 58 件はペットフードだった。販売製品には以下の特徴が見られる。

- 赤身肉、心臓、睾丸、腎臓など多様な部位が含まれる。
- 種名表示がない商品も多数。
- 国内産に加え、ノルウェーやアイスランドからの輸入品も含まれる（CITES の例外規定を利用）。
- **他社（Amazon Japan や楽天）はすでに鯨製品の販売を中止している。**

Yahoo! Japan のこうした姿勢は、他社との間で明確なギャップを生んでいる。

---

6. LINE ヤフー株式会社の環境方針との矛盾

Yahoo! Japan の親会社である LINE ヤフー株式会社は、「持続可能な調達と生物多様性の保全」を企業方針に掲げている。

- 2019 年：象牙製品の全面取引禁止。
- 2022 年：IUCN レッドリスト掲載種のオークション禁止措置を導入。
- WWF や海亀保全プロジェクトなどへの支援実績あり。

こうした取り組みと、鯨類製品の販売継続という実態には、明らかな方針矛盾が存在する。

---

7. 結論と提言

EIA は以下の点を強調している：

- 鯨類製品の販売は、非人道的かつ持続不可能な捕鯨を助長する。
- 高濃度水銀による健康被害のリスクを消費者に負わせている。
- 国際的義務と国内法、企業倫理のすべてに反する可能性がある。

提言：

LINE ヤフー株式会社および Yahoo! Japan は、すべての鯨類製品をオンライン販売から**完全かつ恒久的に撤去**すべきである。また、主要株主であるソフトバンクおよびネイバーもこの問題に対する企業責任を共有すべきである。

EIA 報告書よりヘルプアニマルズ作成